

# ままごととの新聞

newspaper of  
mamagoto

第5号

「ままごと」の新聞」は、  
柴幸男の作品を上演する団体「ままごと」が  
不定期に発行する活動報告紙です。  
発行日：2013年3月4日  
発行元：ままごと

## ままごと、2013年上半期を語る

2013年が始まって3カ月。ままごとは、年明けから新作『つくりばなし』の稽古を開始し、2月に福島・いわきで開催された『Toys'N'Es』、愛知・長久手で開催された『劇王X〜天下統一大会〜』\*に参加しました。この後も今年は劇団としての活動が続くということで、2013年上半期について、劇団員4名が座談会を行いました。

小豆島



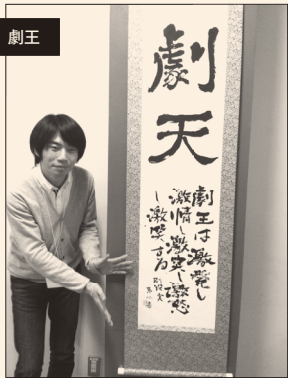
撮影＝青木司



あいちトリエンナーレ



シアターラボ



劇王

——『劇王X』で天下統一を果たし、幸先のいいスタートを切りました。2013年、ままごとにとってはどんな年になりそうですか？

柴 今年、これまで以上にすごくあちこちに行くことになると思います。どデカいのは夏にあいちトリエンナーレで発表する長編ですが、あとは1年間すごく転々と各地に行きながら活動する予定です。

——その第1歩目がいわきと長久手でした。そして3月には新たなツアーが始まります。

柴 はい。『朝がある』の弾き語りバージョンで、3月から4月にまたがる、かなり大掛かりなツアーになります。まず札幌、そのあと仙台、大阪、三重ですね。いわゆるどき回りができる劇団になりたいので(笑)、各地のスタッフさんや劇場の方、それと普段僕らがお世話になっているスタッフにバックアップしてもらいつつ、基本的に劇団員の大石と宮永、僕の3人で公演を成立できるようにしたいと思っています。これは、そのあとの小豆島の予行演習になると思うんです。

宮永 作品を身軽にできれば、どこにでも持つて行けるからね。

柴 そう。今回あえてカフェとか古本屋とか、わざと劇場っぽくない場所です。いつもはスタッフさんも交えて、劇場を100パーセントお城のように設えてお客さんに来てもらうけど、このツアーではもっとゲリラ戦みたいなことができるようになります。また土地によって作品の広がり方や観にきてくださる方へのかかわり方、語りかけ方もいぶん変わると思う。『朝がある』初演は完全に一人芝居スタイルで、舞台と客席はガラス1枚隔てたような距離感だったけど、「弾き

語り」は漫談スタイルっていうか。ブルオーケストラじゃないけど、最小限の楽器で聴かせたい」と思っ、弾き語りバージョンで名付けたので。

大石 僕自身は、多分かなり大変だろうなと思っ……。

柴 だと思っよ(笑)。

大石 空間に対してもお客さんに対しても、適応能力を養いたい。落語家みたいに、空気を見て枕を変える、みたいなことができれば。でも「弾き語り」をやっ、初めて『朝がある』が僕の持ちネタになる気がするし、それができればすごく心強いと思っ、頑張りま。

——そのあと、北海道へ？

柴 はい。シアターラボという企画で、今年と来年、2年にわたり札幌の劇団introのイトウワカナさんのドラマドクターを僕が務めるんです。通常は1年目でプレ公演、2年目は本公演を行うんですが、まずお互いの特徴をつかむためにも今回は短編を1本やっ、イトウさんに短編を書いてもらっ、それをままごととチームとintroチームと、それぞれつくりあげる予定です。そこから見たことを、来年に生かしたい。これには大石君にも出てもらいます。

——そして3月20日には「瀬戸内国際芸術祭2013」が開幕。ままごとは春・夏・秋と3期に渡って参加します。

柴 「港の劇場」という、小豆島坂手港でのプロジェクトに参加します。各期数週間ずつ島に滞在し、島で生活しながら作品をつくるんですが、それに先だっ、昨年、劇団員全員で小豆島の見学に行きました。みなさん、それぞれどうでした？

大石 小豆島は山と海があっ、景色もきれいで、すごくいいところでした。ただ、普段演劇をやっ、劇場とか作家、演出家にある意味守られてるけど、今回はそのガードを外して、僕個人が島の人たちと接し

ていかないとできない作品だろうなと思うので、そこは不安でもありますね……。あと島には年配の方が多いので、うまく接することができるのかどうか。

金員（笑）

端田 畑とか手伝わせてもらったら？

大石 あ、それいいですね！

端田 私も、島で生活しながら作品をつくれるのでわくわくしています。個人的には、昨年子どもが生まれたので、子どもを育てながら演劇をやるには、まず子どもを保育園に入れないと、という普通の悩みはありますけど……。

でも、子どもを介して島の人たちと出会えば、それはすごくうれしい。演劇を通しての出会いとはまた違ってくるかもしれないので、そこに相互作用が生まれたらステキだなと。実はこの間、すでに一人ママ友ができたので、大変ありがたいなと思ってます（笑）。

宮永 この間、町会の方たちが「ぜひ住民になつてもらったつもりで」って言うってくれたでしょ？僕は今回、そのくらいの覚悟で飛び込まないとだめだろうなって気がして。小豆島でつくるってことは小豆島の人たちとつくるってことだと認識してるので、そのつもりで打ち解けたいな。それと、演劇だからなかなかそのままだは難しいけど、でもあそこでつくった作品があつた土地に、ちよつと違う形でいいから残ってほしい。そんな作品にできればいいなと思います。

柴 2、3年前から劇団で基地をつくりたいなと考えてて、いろんな場所を見たり、そこ

で実際に活動してる人たちに会ったりしてきました。今回たまたま、小豆島のもとと幼稚園だった場所を基地にすることができて、人と街がかかわり合って演劇をつくるという、僕たちが今までやりたかったことに挑戦できるチャンスだなと。しかも今回は、僕一人じゃなく劇団で行くので、街の人たちとも集団と集団として、いろいろなかかわり方ができるようにするんじゃないかな。ぜひ面白くしたいですね。

さらに、夏にはあいちトリエンナーレで新作を発表します。

柴 僕にとっては初の、「親子で観られる芝居」というオファーをいただきました。劇場

での作品なので、いつもお願いしているスタッフチームに入ってもらって、フルスベックの作品になると思います。個人的にも今年の新作長編はこれ1本の予定なので、いま試したいと思っていることをいろいろ盛り込んでみるつもりです。これを8月いっぱい愛知でやって、そのあとツアーに持って行きますが、この稽古も愛知だけでなく小豆島でもやるつもりです。小豆島に関係ない人もどんどん巻き込んで（笑）、今年1年小豆島を基点にやっていきたいなと思っています。

上半期だけでも本当に盛りだくさんですね。下半期については、また後日伺います！

\*日本劇作家協会東海支部による、短編劇のチャンピオンを決める企画。10回目の今年は、4代劇王の柴をはじめ、歴代「劇王」が参加して、頂上決戦が行われた



港から少し歩いた場所にある小豆島の浜辺



港から細い路地を上がると、今回ままごとがお借りする、元幼稚園の「遊児老館」があります



見晴らしいのお庭がある、かわいらしい建物です

## NEXT

■柴幸男【演出】・大石将弘【出演】  
・宮永琢生【製作統括】

「朝がある 弾き語りバージョン」  
札幌・仙台・大阪・三重ツアー  
2013年3月2日[土]・3日[日]  
@よりどこオノベカ  
2013年3月20日[水・祝]  
@せんだいメディアパーク  
4月23日[火]—25日[木]  
@FOLK old book store  
4月28日[日]・29日[月・祝]  
@津あけぼの座スクエア  
……etc'

■柴幸男【演出】・大石将弘【出演】

シアターラが札幌 プレ公演  
「鈴木14世」  
2013年3月16日[土]・17日[日]  
@札幌市教育文化会館 小ホール

## 編集後記

第5号は通常のコラムはお休みし、特別編として座談会をお届けしました。どうぞこの新聞を通じて、一人でも多くの方に劇団「ままごと」を知っていただけますように。次号、第6号もお楽しみに。（熊井）

企画・編集＝ままごと  
構成＝熊井玲  
デザイン＝西山昭彦

# あらためまして、ままごとです。

結成4年目を迎えた、劇団ままごと。今年は新たな出会いが増えそう！というワケで、初めましての方もすでにおなじみの方も、あらためて自己紹介させていただきます！

## ABOUT

2009年に、劇作・演出家の柴幸男によって旗揚げされた、柴幸男の作品を上演する団体です。

## CONCEPT

演劇を「ままごと」のようにより身近に。より豊かに——。  
誰もが歌を歌うように、絵を描くように、演劇で遊ぶようになればいい、という想いからさまざまな空間や形態で、創作活動を行っています。

## DISCOGRAPHY

劇団ままごとでは、1年に1、2作品のペースで新作を上演するほか、再演を重ねてさまざまな地域の方々に観ていただくことで、作品そのものの強度を高めることを目指しています。ここではその中から代表的な3作品をご紹介します。



『わが星』（2009年初演）  
ままごとの旗揚げ作品で、第54回岸田國士戯曲賞受賞作。□□□の三浦康嗣の楽曲「00:00:00」と20世紀アメリカの劇作家ソーントン・ワイルダーの『わが町』から想を得て、惑星たちと、団地に暮らすある一家を重ねた作品。2011年に全国ツアーも敢行。



『あゆみ』（2008年初演）  
ままごと結成以前に原型ができ、その後、短編・長編バージョンが誕生。二人の少女を軸に、人生の時の長さ、歩んだ距離の長さと重ね合わせた作品。ままごとでは2010年の「あいちトリエンナーレ」で「あいのあゆみ」を上演。全国ツアーも行った。



『朝がある』（2012年初演）  
劇場からのオファーにより、太宰治の『女生徒』から想を得て制作。劇団員・大石将弘の初一人芝居で、ある少女の朝の瞬間を、光も音も風も、すべて等しく取り込もうとした意欲作。今年、同作の弾き語りバージョンが、全国ツアーを行う。

## MEMBER



柴幸男 Yukio Shiba  
82年愛知県出身。劇作・演出家。青年団演出部所属。何気ない日常の機微をすくい取る戯曲と、ループやサンプリングなど演劇外の発想を持ち込んだ演出が特徴。『ドドミノ』にて仙台劇のまち戯曲賞、『わが星』で岸田國士戯曲賞を受賞。



宮永琢生 Takuo Miyanaga  
81年東京都出身。プロデュースユニットZuQnZ主宰。ままごとの製作総指揮や、演劇ユニットtoiのプロデューサーを務める。



大石将弘 Masahiro Oishi  
82年奈良県出身。俳優。10年にままごとに参加。田上ハル、マームとジブシー、NODA・MAPなど外部作品でも活躍中。



端田新菜 Nina Hahida  
77年京都府出身。俳優。青年団所属。11年にままごとに参加。青年団はもちろん、五反田団、ハイバイ、チェルフィッチュなどにも出演。